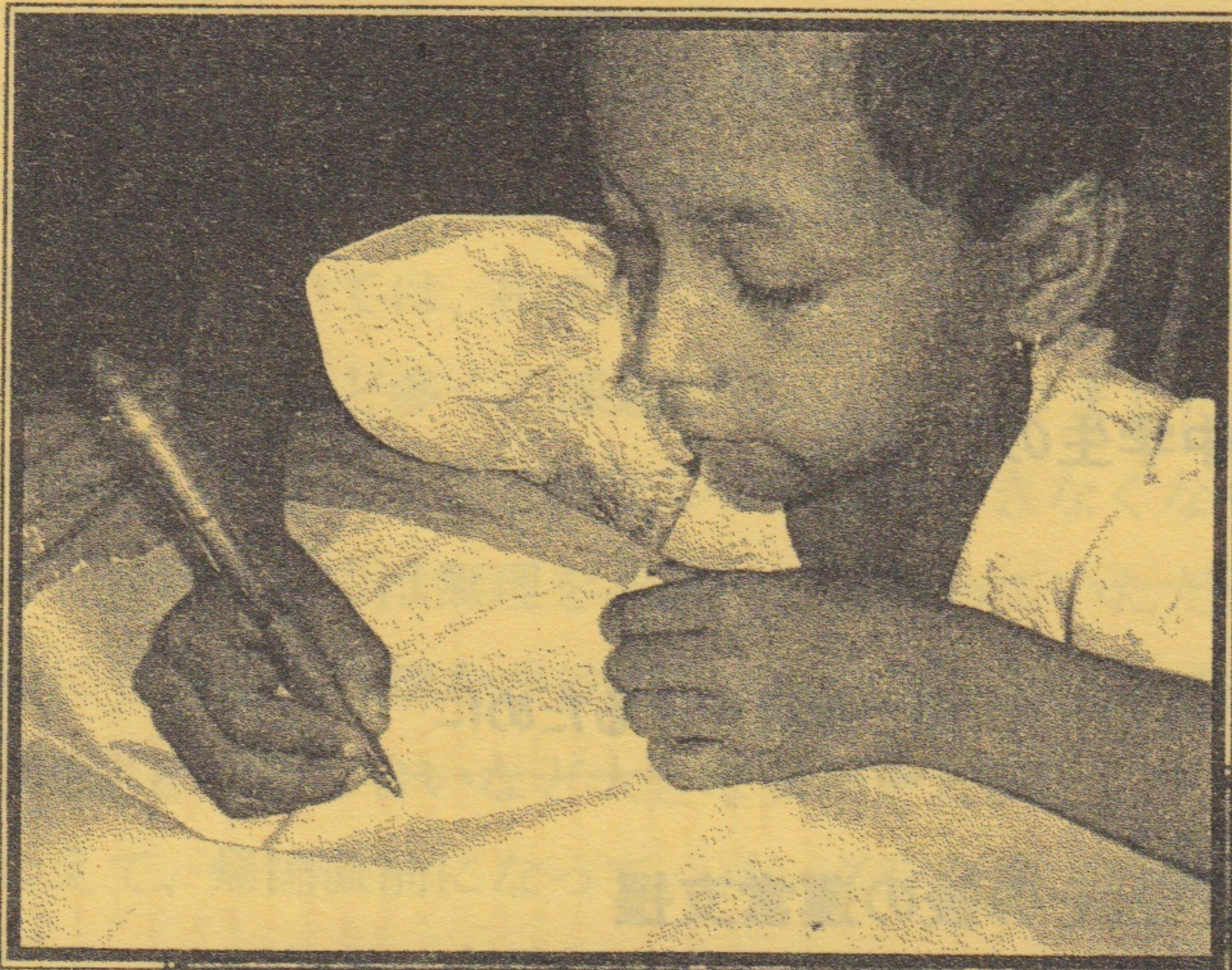


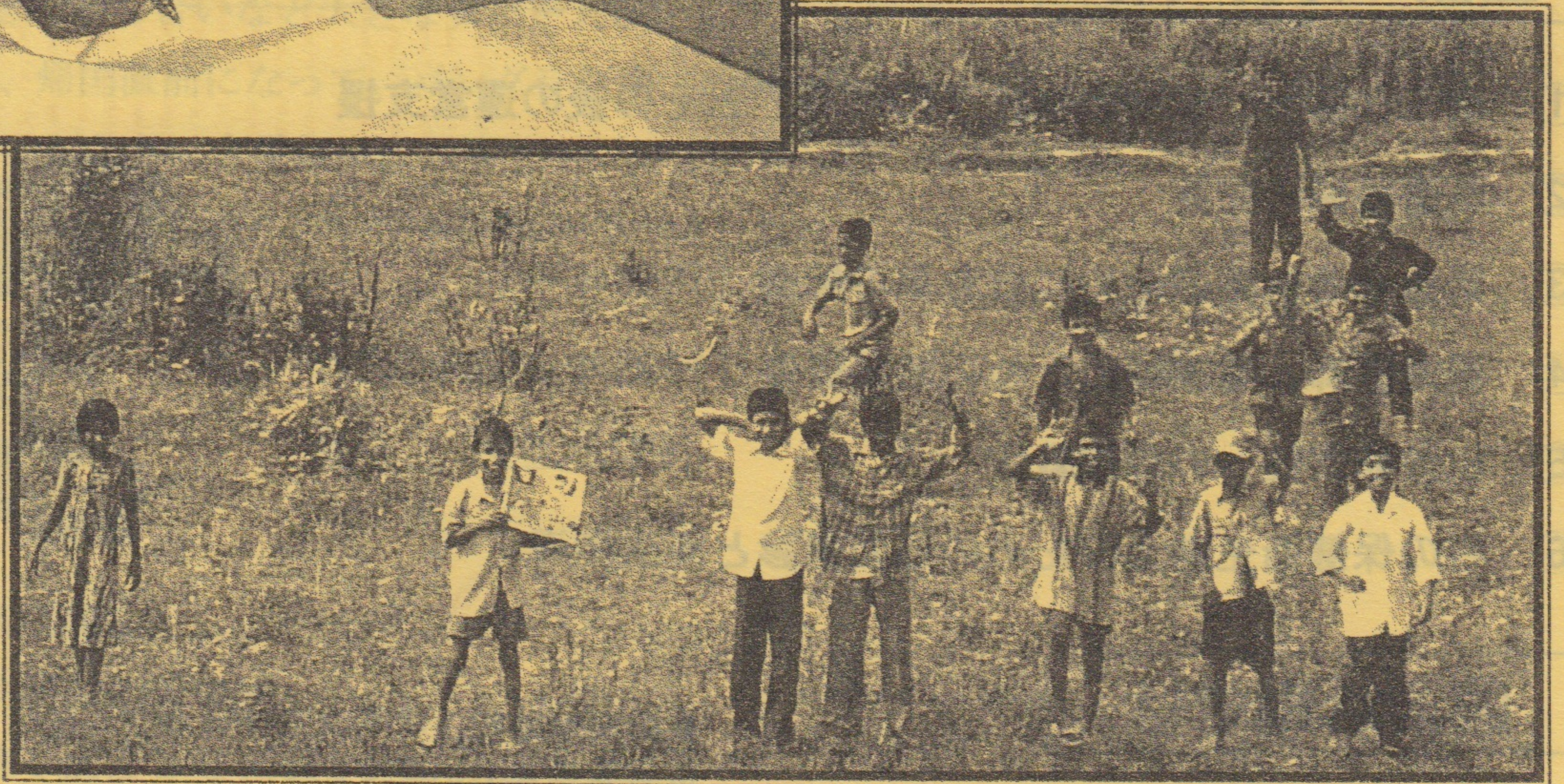
特定非営利活動法人

バン格拉テシュと手をつなぐ会



ミロン

No.103



September 2005

「ミロン」は、一つになる、手をつなぐ という意味のベンガル語です。

■ アジアの子どもたちの未来のために ■

Bangladeshと手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

Bangladeshと手をつなぐ会では、Bangladesh・カラムディで現地の村人による開発のための委員会「ションダニ・ションスタ」と協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

教育の分野では ……

将来を担う子どもたちの教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、教科書の貸出】

医療の分野では ……………

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



国内活動では ……………

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

現地訪問団帰国 報告会は、10月2日(日)です。

現地訪問団が、無事に帰国しました。ラフマンさん、中島さん以外は初めてのバングラツアーでした。年令、職業、経験もさまざまな8名の訪問団を、村人たちも喜んで迎えてくれました。現地では新しい産婦人科病棟が完成し、母子保健センターを中心とした活動も、新しい段階に入りつつあるようです。教育方面でもガンニの「夢みる子ども基金学校」は、全国的にも優れた学校として認められるようになりました。

一方で、母子保健センターの医師の定着が悪く、患者数が伸び悩んでいること、さまざまな課題を自分たちの問題として考えようとするスタッフの姿勢、あるいは教育においては、相変わらずジャパニ小学校の教員の質の問題、運営をめぐる委員の問題など多くの課題が明らかになりました。

今年私は都合により、どうしても参加できなくなり、直前で参加を取りやめました。中島さんには無理をお願いして行っていただくことになり、またラフマンさんにも大きな負担をかけました。何より、初めて参加した皆さんに、不安を与え、現地との話し合いなど大きな負担をお願いしたことに深くお詫びいたします。くわえて、帰国直前になって、バングラ全土での爆弾事件もおき、大変心配しましたが、ほんとうに全員無事に帰国でき、何よりでした。NGO活動、スタディツアーなどの危機管理についても教訓となりました。

(二ノ坂 保喜)

ミロン 103号目次

あいさつと目次	1
現地訪問報告	2~4
現地訪問参加者の声	5~7
新病棟で出産した母親からの手紙	8
国際協力・平和授業の報告	9
地球市民どんたく・NGOカレッジのお知らせ	10
会計報告	11
「バングラデシュと手をつなぐ会」入会のご案内	12
これからの行事予定	13

2005年夏『現地訪問報告』

現地訪問を終えて

『出発まで』

今年は大勢で現地訪問に行こう。久しぶりに人数増加。とても嬉しかった。

しかし出発数日前、二ノ坂代表から電話があり、病院の事情でどうしてもバングラへ行けなくなったと知らされ、頭の中は真っ白になった。今年の団員のほとんどは初めての参加であり、いくら理解があっても、厳しい環境や活動量のなかで耐えられるか心配した。私は一人でションダニのあらゆる分野、すなわち医療や教育や生活改善などに関する情報を収集し、会議に出席して来年度の活動方針について相談もし、その上に訪問団の世話をすることになるとは・・・私自身がパニックに陥ってしまうのではないかとさえ思った。

必死で代替りの人を探した。候補者は何人かいたが、突然のことで誰もが「はい」と言えない。ぎりぎりになって中島さんが前向きに考え、家族の了解を得て、同行することになった。急いでビザを申請し、何とか間に合った。私もほっとした。これである程度安心

して現地にいけると思った。少なくとも、参加者の面倒を見、会のことも十分にわかっているから、現地の話合いに参加・意見を言えるひとが一人増えたからであった。

『カラムディ村到着』

村に着いて翌日の午前中、ションダニの年間活動報告を受けた。その場で二ノ坂さんから預かったションダニ宛ての手紙を読み上げた。私自身もその手紙の内容にはじめて触れ、感動した。訪問団員もションダニのスタッフも最後までその手紙の朗読に耳を傾け、とても熱心に聴き、メモを取っていた人も多かった。



『ジャパニ小学校』

私にとって今年の最重要の課題はジャパニ小学校の運営や子供たちの学習環境作りだった。そのために、村に着いた翌日、ジャパニ小学校の運営委員と話し合い、少しでも状況を変えたいと思った。昨年3月で、前校長が定年退職され、その後継ぎは未だに決まっていない。昨年夏、ションダニはジャパニ小学校の運営委員と話し合い教員採用をしたが、その後新しい運営委員会が作られ、その採用を無効にした。したがってションダニは一時的にジャパニ小学校の教育について口を挟まない方針をとり、離れていった。今年に入り、状況は全く変わらないと判断し、今までションダニが派遣していた教員も辞めさせ、状況を見守ることにした。私は現地にいる間に、このような状況を打開するため、運営委員や保護者たちと話し合いを持った。しかし運営委員はそれぞれ自分の利害のことだけを考え、自分の親戚を推薦し教員として採用したいと言う。本来ならば学校の主役である子供のことをみんなで考え、早く教員を採用するはずだった。

面白いことに、学校に自分の子供が通っていない委員が多数占めている。他人の子供は勉強してもしなくても自分に関係ないと思う委員、また学校のことを全く知らない委員もいる。直接保護者と話し合う場を作ろうと思

ったが、結果的にできなかった。詳しいことは報告書をご覧ください。

『母子保健センター』

産婦人科病棟が完成し、庭の緑も増え、母子保健センターの全体の雰囲気はかなり変わった。今までは待合室に男女一緒に互いに遠慮しながら座って順番を待ち診察を受けていた。室内に席が足りずに、廊下で順番を待つ患者さんも多く見受けられた。一番困っていたのは妊婦さんたち。プライバシーが全くなく、嫌な思いをした人もいた。今は産科婦人科病棟に誰もが出入りできるわけではなく、自然に遠慮しないといけなような雰囲気になっている。入り口に入ると、真っ先に見えるのは、左側の大きな女性専用の待合室。そこで女性患者さんたちは看護師や医者と気楽に相談できるが、それより患者同士で互いの問題についてゆっくり話ができることが何よりもいいことだ。

今年は昨年と比べて外来患者数が減っている。出産者数や入院患者、救急車の出動回数、検査などはそれほど変わってはいない。なぜ外来患者数が減っているか説明を求めたところ、少し曖昧な返事が返ってきた。今年は農産物の収穫がよくなく、人々はお金を持っていない、だから病気にかかっても病院に来ない、また医者がひとり退

職にしたことによる悪影響などが答えだった。私は数字も大事だが、それだけではなく、その数字をどう見るか、ひとつの組織を運営するには数字はとても重い意味を持っていることをみんなに理解してもらいたかった。シヨンダニのスタッフもこのことにとっても重きを置き、話し合いに参加してくれた。彼らは今までも医療関係者だけで頻繁に会議を開き、話し合ってきたが、成果は思ったほど上がらなかったと話していた。これから体系的に会議を開き、スタッフ一人一人の意見を聞き、十分に議論し、問題を共有して行動に移すと言った。日本に帰ってきてシヨンダニにその後の状況について尋ねたところ、幹部職員もフィールド・スタッフも一体となってみんなは今動いていると報告を受けた。年末までには状況が変わると思う。

24 時間体制の病院には一人の医者ということは問題だが、探しても探しても医者は田舎に来たがらないし、来ても長く残らない。また給料も高く要求する。最近一人の女医から連絡があったそうだが、2 万タカ(4 万円相当)を要求してきた。シヨンダニは今それぐらいの給料を出す余裕がない。これも本当に深刻な問題だ。

『治安問題』

いよいよ、村滞在の終わりになって

きた。17 日午前中、私たちは夢見る子供基金学校を視察に行った。お昼ころ事務局長のザフォルからメヘルプール県庁の前で爆破事件があったと電話連絡を受けた。しかしその時点で、全国規模で爆破事件があったと思わなかった。国内にいてもよくわからなかったが、日本から連絡を受け、初めてそのことを知り、怖くなってきた。訪問団員にどうやってこのニュースを告げるか困っていた。とにかくみんなは状況を把握しておくべきだと思い、分かる範囲で状況をみんなに話した。無事帰国を願っていた。しかし翌日ダッカに戻ると、市民生活にそれほど影響がなく安心した。今どの新聞も毎日この件について記事を書いているし、与党や野党の取引材料にもなっている。国全体は早くこの状況から抜け出すことを願っている。

2005 年夏の現地訪問を終えて今、みんな病気もせず、元気で帰国できたことがなによりもうれしかった。





バンングラデシュへ行ってきました!

2005年8月11日～21日。訪問団8名、うち初訪問者6名。カラムディ村へ行ってまいりました!!さてさて、今年の訪問はどうだったのでしょうか? 先ずは皆さんの感想をお読みください。



人生晩期、こころの旅

松尾 清美

「バンングラまで来てよかった。」アジア人のこころに触れたかった自分探しの旅。村びとたちは緑と水と動物と一緒にたになって大地にへばりついて生きていて、道行く人に私が「アッサラーム・アライクム!」(おはよう、こんにちは)と声をかけると、「アライクム・アッサラーム!」と一人残らず返事が返ってくる。子供は裸足で走りまわる。小さなため池を囲んで親類同士が数軒ずつ固まり、土間と居間一室の土づくりの簡素な家。数軒の家にノコノコ入って行った。老夫婦から主人夫婦、その息子や娘が紹介され、ビスケットが出る。来客大歓迎のおおらかで善良な民族性。そして大人にも子供にもベンガルの民衆文芸の血が流れ、行事のたびに演劇や歌や詩文朗読に濃密な感情表現と演技力を発揮する役者が続々登場するのには感嘆。

手をつなぐ会の支援でできた母子保健センターが10周年、ジャパニ小学校が15周年の大台を超え、ますます地域に根ざすように、その経営にあたる現地NGO「シヨンドニ・シヨNSTA」の創意と使命感の格闘はこれからもつづく。

昨年参加の木村さんに背中を押されての参加でしたが、人生晩期にいたって気持の整理ができました。皆さん大変お世話になりました。



バンングラデシュ訪問

中島 ともこ

2002年12月、当時高校1年生の息子と2人でスタディーツアーに参加して以来、2年8ヶ月ぶりにバンングラデシュを訪れて、まず目を瞠ったのは、ダッカ国際空港の整然とした雰囲気でした。白を基調とした色彩の床や壁、タイルを貼った柱には造花ですが至るところに花が飾ってあり、照明も明るく、不安をかき立てるような要素は、ありませんでした。

又、目を瞠ったのは国際空港だけではありません。ダッカの町中は、さながら福岡市天神周辺のビル群の中を走っているような錯覚さえ覚えました。高層ビルが立ち並び、全てのビルにガラスが入り、ショーウィンドーには、マネキンがバンングラの民族衣装の他に、当地の流行であろう服を着て立ち、ネオンが輝き...前回の訪問の時は、廃墟なのか建設中なのか区別も付かなかった雑多な街並みが、今回一変し、目の前に立ち並んでいました。発展途上国の成長ぶりは、1年で10年分と聞きましたが、まさにこの目で、肌で実感することができました。



…バングラデシュ・カラムディ村へ着任

2005年8月13日

バングラデシュと手をつなぐ会隊員 平山 正明

水の国・バングラのイメージが強い…迎えてくれたのは水の中に点在するレンガ工場の煙突とダッカ空港での担ぎ屋さんの大量の荷物。

稲作とジュート田の中をバスでカラムディへ。清潔感溢れるシオンダニ・シオンスタ病院宿舎での生活が始まり…着いてすぐのカレー最高においしい。食後のマンゴーは生まれて初めて味わう美味。挨拶と顔合わせ後村の散策。歩くところ人だかり・満足の歓迎。夕食のカレーも本場の味・バングラに来て良かった！夜は快適な蚊帳の中で健やかな眠りにつく……



世界は広い

宇田 貴美子

今回 初めて国籍、宗教、文化背景の異なるバングラデシュに 短い期間ではありましたが訪れ、直に触れてみて、何事につけても同質な社会で生まれ育った日本人の私にとっては バングラという国は新鮮でもあり、またショックを受ける部分も実際のところありました。日本とは異なる小学校の授業風景、人々の歯磨き法、お祈りの時間、彼らのライフスタイル、時間の流れ方などなど。

同じ地球上でこんなにも文化も言葉も異なる人々と共存していたんだ、地球は広いんだとあらためて 自己発見となった旅行でもあり、とても勉強になりました。



念願のバングラデシュ・カラムディ村

堀 哲也

私はバングラデシュと手をつなぐ会主催の様々なイベントやワークショップなどに参加してきまして、いつか現地に行って、自分の目で確かめてみたいと思っていました。今年、ついに念願が叶い、2005年夏現地訪問に参加することができました。

車を降り、母子保健センターの敷地に足を踏み入れ、シオンダニ・シオンスタのスタッフやMCHのスタッフの皆さんの出迎えを受けた時、「ついにやってきたか！」と、感慨にひたりました。8月13日の午後のことでした。訪問した時期が夏でしたので、とても蒸し暑く、かなり汗が出ますので、ハンドタオルと扇子が欠かせませんでした。村の住民たちは私たちの訪問を知っていたのか、私たちがどこにいても、「ジャパニ！ジャパニ！」と叫びながら、私たちに寄ってきました。村の住民たちはとても明るく、目が大層輝いていて、特に子供たちは、とてもはしゃいでいました。今の日本ではなかなか見ることができないものですね。

シオンダニ・シオンスタの会議への参加、ソーシャルワーカーの方と一緒に村を巡回、仔牛プロジェクトの家庭を訪問、オンネシャ小学校訪問など、様々な活動をさせていただいて、普通の海外旅行ではできない体験ができて、とても充実した10日間でした。最後になりましたが、このような機会を与えてくださったバングラデシュと手をつなぐ会、シオンダニ・シオンスタ、その他関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



初めてのバングラデシュ

瀬上裕子

今回初めてバングラデシュに行くにあたって、気候、食事、宗教、団体行動…正直いろんなことが不安でした。でも、行って本当によかったと今、感じています。

確かに、毎日暑くて身体はべとべと。それなのに、停電&断水でシャワーが浴びられなかったり、浴びられてもシャワー室内で蚊との戦いだったり。生気の元となるべき食事も、これまたハエとの戦いだったり、カレーカレーカレーでげんなりだったり。

しかし、それでも“よかった”と思えるのはなぜなのか。それは、きっと、“生きていた”からだと思います。太陽が生きていました、草木が生きていました、その中で子ども達が生きていました、そして、大人たちも生きていました。シヨンダニ・シヨンスタや村の中に地域のことを考えて試行錯誤している人たちの姿を見て、私は元気をもらいました。大人たちのそんな姿を見て子ども達に大きく成長して行ってほしいなと願いました。

ほんの1週間ほどの滞在で、まだまだ分からないことだらけではありますが、分からないことも含め今後もっともっとこの村と付き合っていきたいと感じました。この村や村人に愛情を持てたことが、この旅一番の収穫だったと思います。

同時に、この現地訪問をいいものにしてくださったのは、これまでカラムディ村との関係を直接的・間接的に地道に築きつづけてくれたバングラデシュと手をつなぐ会やそれを支援してくださる皆様の力のおかげだということも感じました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



今回のバングラデシュ訪問を終えて

田添 太一

カラムディ村の現地訪問を終えての感想として、楽しかったの一言しか出ない。僕は今回飛び入りの参加だったのでバングラデシュと手をつなぐ会のこともよく知らなかったし、バングラデシュについての勉強もほぼしていなかった状態での参加だった。だがそれが逆によかったのか、何をするにも全てが新鮮でとても興味を持つことができた。現地では主に学校を見て回ったが、生徒の授業に対しての興味は個々人で差があるかもしれないが、みな学校は友が集い楽しいところという気持ちがあることは感じとれた。その点が日本と共通していることを見い出せて一番印象に残ったことであつた。

とにかく大きな感想としては言葉ははっきり通じないけど現地の人と共に笑い、楽しむことができたので大変思い出深い旅になった。また英語力の不足から言いたいこと、聞きたいことが不十分だったので語学力をもっとつけて再度機会があれば訪問団に参加したいと思う。

お母さんからの手紙

カラムディ村母子保健センターに、産婦人科病棟がついに完成致しました。新病棟は既にオープンしており、分娩時だけではなく、検診時の女性専用待合室の利用等、活躍しております。その新病棟で出産したお母さんからこんな手紙が届きました。



↑(注) 手紙のお母さんではありません。あしからず。

私はカラムディ村出身のマスマ・カトゥーンです。この病院で赤ちゃんを産みました。妊娠してから 5 回検診を受けました。そして陣痛が始まってすぐに病院に来ました。入院 12 時間後、元気な男の子を産みました。今、私も赤ちゃんも元気です。今回、私はこの病院で 2 人目の出産です。病院は以前と比べてとても快適になりました。旧分娩室と陣痛室はつながっていて出産に付き添う大勢の人たちの話し声で、ゆっくり休めませんでした。しかし、新病棟の分娩室と陣痛室は、ゆっくり休めるように快適になりました。また、医者や看護師は私の出産にとっても気を遣い、親切でした。私は安心して出産することができました。とても嬉しいです。私は親戚の人びとに母子保健センターの産婦人科病棟で出産するように勧めています

বরাবর
পরিচালক
শ্রীমতী অম্মা
আমি কামাডুগামের একজন উৎসাহ দায়ী নারী,
এই হাসপাতালে আমার একটি প্রত্যয় প্রকাশ হয়।
আমি প্রথমে ভাবছিলাম যদি সার্জিকাল হলে আমার
সন্তান না হয় তা হলে কোথায় যাব তারই পরামর্শে
আমার মন এত ব্যস্ততা নাই আমার চিকিৎসা ও মনস্তাত্ত্বিক
কাজে করছিলেন আমি ও তার সূক্ষ্ম পরিচালনা করেছি
জিও ডাক্তার ও নার্স বলেছিল আমার প্রসঙ্গের কথা
নবমাল ডেলিভারি করা এবং প্রায় নবমাল ডেলিভারি

←
お母さんからの手紙

国際協力・平和授業の報告

ラフマン・モクレスール

国際ソロプチミスト福岡北 5月20日

産婦人科病棟の建設資金が足りないという呼びかけの記事が新聞に掲載され、その内容に感動された国際ソロプチミスト福岡北の会員たちが、同じ女性の立場でこの問題に取り組み、手をつなぐ会の活動についてもっと詳しく知りたいと、5月の月例会に招かれました。会員の皆さんの関心度が高く、熱心に耳を傾けてくださいました。また支援金も頂き、そのほか民芸品や紅茶もたくさん買っていただきました。これからも協力していただけるということです。

福岡女学院大学英文学科の学生に対して国際協力について講演 6月17日

今年で2年目の講演。学生たちに今の世界の情勢について少しでも関心を持って欲しいという狙いでこの授業が計画されました。私は国際協力とは何かについて話しました。ものをあげることが国際協力か。バングラデシュの女性が日常的に着用するサリーを日本人にあげてもそれは役に立つか、実際に学生に着させて意見を聞きました。見掛けはとてもきれいだが、毎日その服を着なさいと言われてたら、答えはNOです。そうすればスカートをはかない国民にスカートを送ってもそれは国際協力にならないでしょうねという結論でした。そのほか、ODAに対する支援額の面で、先進国の中でのアメリカと日本の位置も言及しました。

日田教育委員会主催日田市立日隈小学校での講演会 7月14日

日隈小学校の全校生徒や保護者を対象にバングラの文化を紹介しました。同じ会場で小学校の1年生から6年生まで参加し、どうやってみんなの関心を引くか、とても困りました。子供たちの学年や年齢を考慮して質問や行動内容を決め、とにかくじっと座らせないで動かすことを考えました。講演終了後はほっとしました。

福岡県立小郡高校 7月23日

国際交流クラブの学生たちに対し、環境問題に取り組み、ほかの国でどのように考え、どのような事が行われているかについて勉強会をしました。ALTやハビタット職員や県の国際交流センターから派遣されたスタッフが参加しました。全ての参加者が英語で話すことが条件でした。私はバングラデシュで取り組んでいる買い物に使うビニール袋の代わりに麻や布袋の導入について話し、実物とビデオを見せました。みんなとても感動しており、高い評価を受けました。

高田町公民館料理教室 7月27日

今年1月に公民館の女性大学の受講生に対して、イスラム社会の特質について講演しました。そのとき料理を通して他国の文化に触れ合うことも大切だという話が盛り上がり、7月にそれが実現しました。バングラカレーとシンガラを作りました。みんなとても喜び、民芸品もたくさん買っていただきました。

福岡県国際交流センター主催開発教育授業案作り 8月8日

小学校教員、留学生、青年海外協力隊員OBやOG、NGO関係者みんなが開発教育の授業案を作り、それを班毎に発表し、最終的にその案を学校で実行することになりました。1日かけてみんな熱心に勉強しました。私は環境部会に所属し、バングラデシュが取り組んでいるビニール袋使用禁止について話しました。

＝ イベントのお知らせ ＝

地球市民どんたく2005 元気バイ福岡、やるバイ国際協力

日時: 10月15日(土)、16日(日) 11時～19時

場所: ベイサイドプレイス博多ふ頭 入場無料

■□□□ NGO紹介ブース【場所: 2階大ホール】

パネルや写真の展示、民芸品・飲食物の販売など。バングラデシュと手をつなぐ会のブースは16日(日)のみ。バングラデシュの食べ物シンガラの販売もあります。乞うご期待!

□■□□ 国際協カステージ 【場所: デッキ特設ステージ】

NGO活動紹介、民族音楽パフォーマンス等、民族衣装ファッションショー、ビンゴ大会 etc

□□■□ ワークショップ 【日時: 15日(土) 11:00～18:00 場所: 2階ギャラリー】

「インドネシアの楽器体験」「貿易ゲーム」など、世界のことを体験やゲームを通して学ぶワークショップ6コマ。

□□□■ 国際協カセミナー 【日時: 16日(日) 13:00～17:00 場所: 2階ギャラリー】

「ほんの少しの勇気から始めよう～自分発! 国際協力」をテーマに、外務省講演、中村尚司氏(龍谷大学経済学部教授)基調講演、更に、福岡のNGO団体からパネリストを3名迎えラウンドトーク。バングラデシュと手をつなぐ会からもパネリストとして参加します。

⇒お問い合わせ⇒⇒⇒ 「地球市民どんたく2005」実行委員会事務局

(財)福岡国際交流協会内 TEL: (092)733-5630 FAX: (092)733-5635

わたしたちを取り巻くグローバルな問題を学ぶ全4回講座

2005年度 **NGOカレッジ** ～わたしと世界、どうかかわるか?～

日時: 11月5日(土)、12日(土)、19日(土)、23日(水・祝) 15時～17時

場所: 天神ビル11F(第1、4回)、福岡YWCA会館3F(第2、3回)

受講料: 一般1000円(1回につき) / 3600円(全回前払) 学生割引あり

■□□□ 第1回 わたしは世界のどこに立つ?～国際協力ことはじめ～

□■□□ 第2回 北上するカツオ、南進する人々～私たちが生きる社会のしくみ～

□□■□ 第3回 私たちは水の惑星に住んでいる～世界が抱える水問題～

□□□■ 第4回 私と世界が関わる方法～アジアの人々の“現場”から～

⇒お申し込み・お問い合わせ⇒⇒⇒ NGO福岡ネットワーク

TEL/FAX: (092)741-9255

milon

会計報告(2005年8月25日現在)

新会員紹介(敬称略)

金川敏治

募金者紹介(敬称略)

長崎・バンングラデシュの母子保健センターを支援する会 相賀節子 長沼和子

足立京子 佐治泰世 佐伯邦男 小崎隆子 今給黎靖子 東島功 津田光昭

吉川八重子 藤田健二 稲津佳世子 井原環 富田桂子 松尾邦子

産婦人科病棟建設&設備費募金者紹介(敬称略)

竹田照 大賀久美子 林久美子

旅費カンパ者紹介(敬称略)

平山正明 松尾清美 堀哲也 洲上裕子 田添太一

宇田貴美子 中島とも子 古賀南 福田シゲノ 藤岡美保

山田キミエ 西田和子 松隈則子 山下久代 西原美幸

井上伊磨子 一步の会 和田タマ 志岐玲子

ご協力
ありがとう
ございました。

事務局だより

西新事務所は10人も入ると窮屈です。現地訪問の事前研修は運営委員、事務局スタッフも含め12名で実施した日もありました。真夏の夜ですから、冷房も効き目がなかったのは言うまでもありません。

その暑さが現地の暑さに慣れる研修でもあったかのように、現地訪問団はみなさん体調を壊すこともなく、帰国されました。帰国してほっとする暇もなく、会報の原稿、報告書の原稿、報告会の準備に勤しんでおられます。事務局としても一番忙しい時期です。現地で広報用に調達したノクシカタ(ベッドカバー、刺繍入りポシェット、小物入れ等)、ジュート製品などの整理におわれています。10月2日(日)の報告会が初披露になりますので、楽しみにしてお出かけ下さい。報告会が終わりますと引き続き、10月30日(日)のチャリティーバザーが待っています。産婦人科病棟の設備はまだまだ不足しています。資金が捻出できるようバンングラデシュの紅茶や家庭料理の販売も計画中です。ぜひ買い物にお出かけ下さい。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。バザー用品ご提供のご連絡は下記へ。

西新事務所 電話&FAX 092-844-1369

いのさかクリニック 電話 092-872-1136

FAX 092-872-1137

■入会のご案内

会員募集中

Bangladesh と手をつなぐ会にあなたも参加しませんか？

Bangladesh と手をつなぐ会では、 Bangladesh ・カラムディ村の教育と医療への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

会員

会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。

会費 月額500円 年間6,000円

賛助会員

会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人または団体の方。

会費一口月額1,000円年間12,000円

※ 何口でも結構です。

会費振込先 郵便振替口座 01720-2-10442

加入者名 Bangladesh と手をつなぐ会

※入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはFAXにてお送りください。

きりとりせん

■ Bangladesh と手をつなぐ会入会申込書 ■

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏名

男・女

生年月日

明・大・昭・平 年 月 日

才

職業

住所

電話・FAX

E-mail

@

会員 協力会員 として入会を申し込みます。

会費は 年 月分 から 年 月分までの

円を 直接 郵便振替で納めます

これからの行事予定

～皆さま、どうぞご参加ください！

月 日	時 間	内 容	場 所
9月 15日(木)	19:00～	運営委員会	西新事務所
9月 23日(金)	11:00～	報告書印刷	にのさかクリニック
10月 2日(日)	13:30～ 16:30	現地訪問報告会& コンサート	九州大学 国際交流プラザ
10月 6日(木)	19:00～	事務局会議	西新事務所
10月 15日(土)	終日	地球市民どんたく	ベイサイドプレイス
10月 16日(日)	終日	地球市民どんたく ※手をつなぐ会出展	ベイサイドプレイス
10月 20日(木)	19:00～	運営委員会	西新事務所
10月 29日(土)		バザー用品値付け	にのさかクリニック
10月 30日(日)	12:30～	秋のバザー	にのさかクリニック前
11月 4日(金)	19:00～	運営委員会	西新事務所
11月 17日(木)	19:00～	事務局会議	西新事務所
12月 1日(木)	19:00～	運営委員会	西新事務所
12月 15日(木)	19:00～	事務局会議	西新事務所
12月 19日～	—	スタディーツアー	バンク・ラッシュ・カラムデイ村

※NGO カレッジ及び地球市民どんたくに関しては、P10をご参照ください。

現地訪問報告会開催!

2005年、夏の現地訪問、無事帰ってまいりました!

ミロンにも感想や今年の状況等を掲載しておりますが、更に詳しいご報告と訪問団の笑顔をお届けするべく、『現地訪問報告会』を開催いたします。

日時: 10月2日(日)

13時30分～ コンサート

15時～ 報告会

場所: 九州大学国際交流プラザ

(早良区西新 2-16)

参加費: 1000円 (報告資料代として)

皆様のご来場、
心よりお待ちしております。

秋のチャリティーバザー のお知らせ

Bangladesh の子どもたちに
教育と医療の支援を

日時: 10月30日 12時30分～15時

(12時30分～ Shana のオカリナコンサート)

場所: にのさかクリニック前駐車場

(早良区野芥 4 丁目バス停そば)

恒例! 秋のチャリティーバザーの季節がやってまいりました。

陶器に小物に Bangladesh 紅茶、民芸品の直売もいたします。

ぜひお立ち寄りください。

また、バザー用品のご提供もお待ちしております。

